



医療連携室 TEL & FAX 03-3364-0366

放射線科

放射線科部長代理

館野 円

放射線科は、放射線診断担当医 3 名、放射線治療担当医 1 名の計 4 名で、放射線機器を利用した診療を行っています。平成 16 年度の検査実績は、CT：10,684 件、MRI：6,050 件、核医学：1,162 件、血管造影：290 件で、放射線治療は照射回数：7,256 回でした。当院では CT、MRI、核医学検査の読影を放射線診断専門医が担当しています。

地域の先生方には医療連携室を通じて CT、MRI 検査をご利用頂いておりますので、ここではこれらの検査を中心に放射線科の業務をご紹介します。

- ・CT 当院には東芝社製多列検出器 CT(MDCT)装置 Asteion とヘリカル CT 装置 X-Vision の 2 台の診断業務用 CT 装置があり、検査部位や目的によって使い分けています。CT 検査は、広く用いられており、短時間体位が保てればほとんど禁忌なく施行できます。解剖学的情報にすぐれるため、体内の占拠性病変の有無がわかります。造影剤を投与することで、腫瘍の性状や周囲臓器への浸潤などがより把握しやすくなりますが、腎機能を悪化したり重篤なアレルギーを起こす可能性があるため、適応は慎重に決める必要があります。
- ・MRI シーメンス社製の磁場強度 1.0 テスラ Magnetom Harmony と 1.5 テスラ Magnetom Vision の 2 台があります。MRI にはさまざまな撮像方法があり、目的に応じて適切な方法を選んで検査を行います。MRI は、解剖学的情報は CT よりやや劣りますが生化学的情報を持ち合わせており、骨の影響を受けないので CT の弱点を補える検査です。CT が主に体軸横断像であるのに対し、MRI では体軸横断像のほか、矢状断像、冠状断像などを得ることができます。しかしペースメーカー埋込み後や閉所恐怖症では禁忌であり、様々な制約もあります。

放射線科医は、CT、MRI とも診療放射線技師、看護師と連携して、時には問診や診察をしながら依頼内容をもとに検査計画を立て、検査を施行しています。必要に応じて造影剤の静脈内投与を行うこともあります。造影剤は、前述の如くリスクがあるので、アレルギー歴などをチェックして慎重に投与し、経過観察しています。撮影後には適切な画像処理をし、読影を行います。当院で過去に検査が行われている症例は可能な限り比較検討を行っています。2002 年 8 月より CT、MRI 画像はコンピュータ保管しており、より迅速、確実に比較が行えるようになりました。

医療連携室を通じて検査をご依頼いただいた場合、画像は検査当日にフィルムにしてお持ち帰りいただき、読影報告書は後日郵送しております。報告書は簡潔でわかりやすい言葉遣いを心がけておりますが、不明な点はお気軽にお問い合わせください。この他にも検査内容や方法についてのご質問、ご要望がございましたら、お聞かせください。

